

# 白神山地世界遺産地域周辺における センサーカメラによるニホンジカ監視について

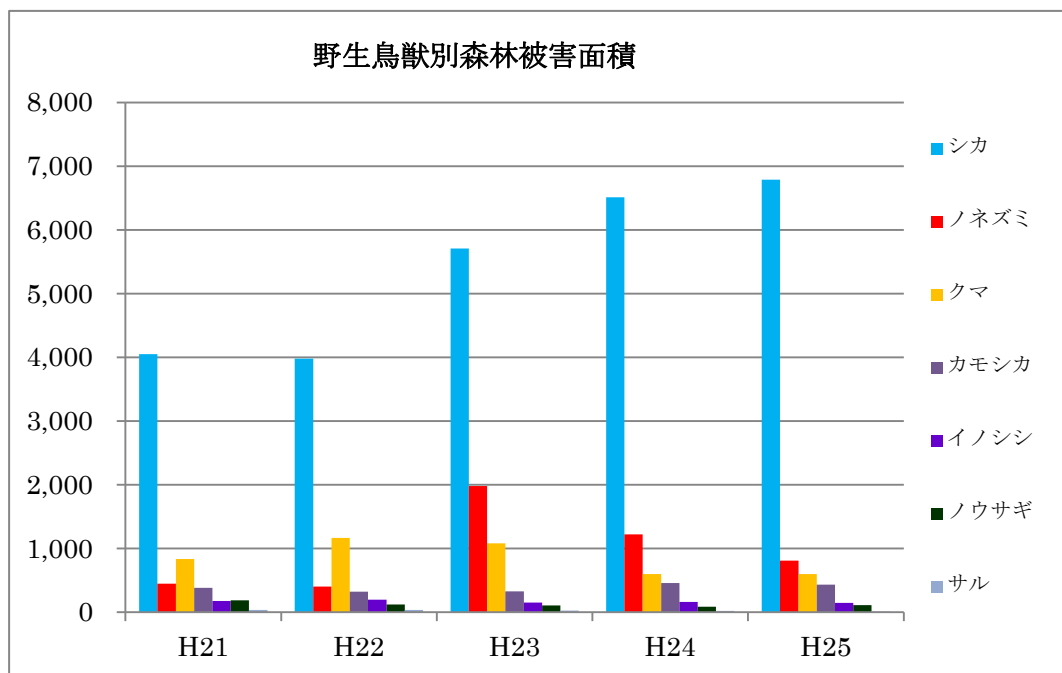
津軽白神森林生態系保全センター      一般職員      ○久保翔太郎  
生態系管理指導官      鈴木修  
藤里森林生態系保全センター      専門官      阿部耕士

## 1. はじめに

現在、全国的にニホンジカの生息数・生息域が拡大している。ニホンジカは群れで行動し繁殖力が強いことから爆発的に頭数が増えるという特徴があり、食害による農林業被害や生態系への影響が各地で報告されている。

野生鳥獣による森林被害面積（H25）は8,895 haであるが、その内ニホンジカによる被害は6,789 haと全体の約76%を占め、さらに今後も増加する可能性がある。（表1）

白神山地世界遺産地域周辺でも近年目撃情報が増えており、今後ニホンジカが遺産地域に生息し頭数を爆発的に増やすことになれば、白神山地の生態系への重大な影響が懸念される。このことを受け、林野庁、環境省、青森・秋田両県で構成される白神山地世界遺産地域連絡会議ではセンサーカメラを使用しニホンジカの監視を実施することとし、初年度であるH26年度は林野庁が45台（青森側：津軽白神センター22台 秋田側：藤里センター23台）、環境省が23台のカメラを使用し、監視を行った。



（表1）林野庁統計資料

## 2. 調査方法

監視には熱を感知するカメラ2機種を使用した。(図1)

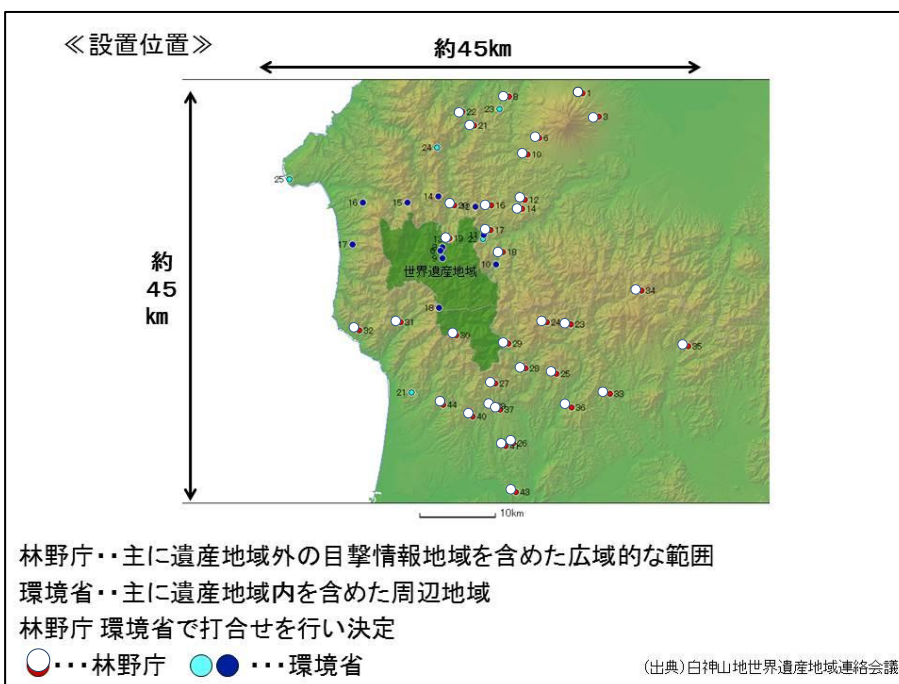
設置は、林道沿いや森林作業道沿いの立木 1.2m~1.5mの高さに設置し、カメラの角度がやや下向き $-5^{\circ}$ ~ $-10^{\circ}$ になるよう枝等を挟み調整した。また動物を長く捉えることができるよう、道路方向に対してカメラを斜めにセットした。

<p>《使用機器》</p> <p><b>TREL 10J</b> 25台</p> <p>・<b>メリット</b> メンテナンスが容易 電池の持ちが良い</p> <p>・<b>デメリット</b> 夜間カラー撮影不可 夜間の撮影範囲が狭い</p>		 
<p><b>FieldnoteDUO</b> 20台</p> <p>・<b>メリット</b> 夜間カラー撮影可能</p> <p>・<b>デメリット</b> メンテナンスが面倒 樹木等の葉の動きに反応しやすい</p>		 

(図1)

設置位置については、過去にニホンジカが目撃された地域に重点を置き、効果的な配置となるよう環境省と打合せを行い最終決定をした。(図2)

林野庁では5月中旬から順次カメラの設置を進め、6月までに全台数の設置を完了し11月末日まで監視を行った。



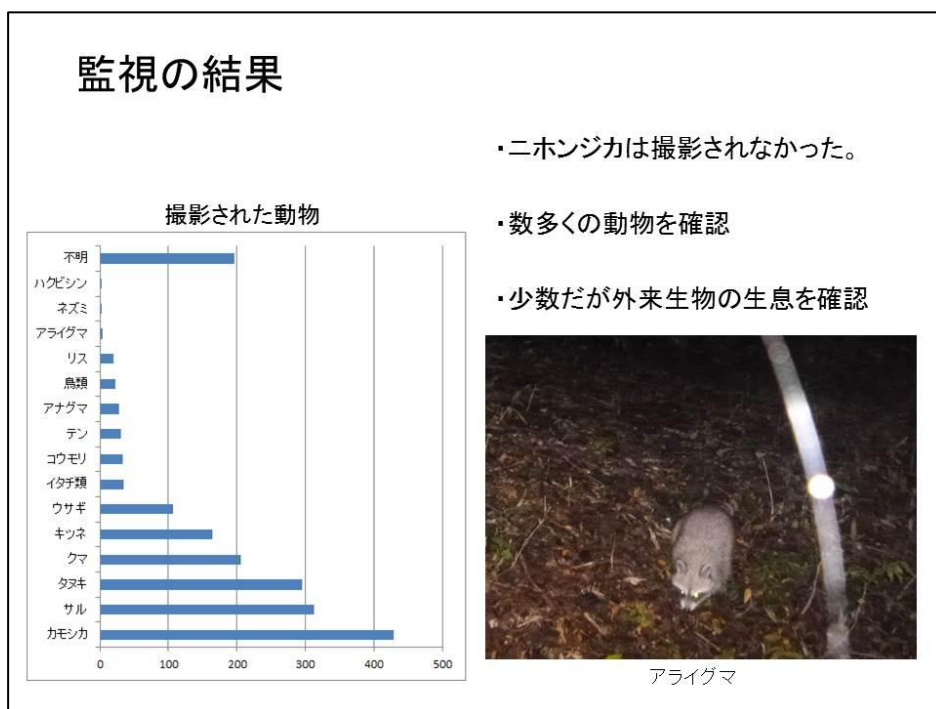
(図2)

### 3. 結果

監視対象であるニホンジカは撮影されなかった。

一方で今回のように広範囲な調査により、数多くの動物が撮影され白神山地の豊かな生態系の一端を確認できた。

なお、あまり多くは撮影されなかったが、世界遺産周辺地域においてアライグマなど外来生物の生息を確認した。(図3)



(図3)

### 4. 課題

監視中の課題として、夜間に撮影された画像はモノクロで撮影されることから、ピントが合わない、動物の体の一部しか撮影されていないものが多く、同定が困難であった。

そのため試験的にカメラ1台を動画撮影に切り替えモニタリングを行った。

結果として、動画での撮影は歩き方などの行動も把握でき、圧倒的に情報量が多いため同定が比較的簡単に行える事が分かった。

一方で、データのチェックに時間がかかり、バッテリーの消耗も早まるため、カメラのメンテナンスを行う間隔が短くなるなどのデメリットが考えられる。

### 5. 白神山地周辺におけるニホンジカ目撃情報

林野庁が今回の調査とは別用途の委託調査用として設置していたカメラと、環境省がニホンジカ監視用として設置したカメラでそれぞれニホンジカとみられる個体が撮影された。

林野庁は青森県深浦町追良瀬川上流部でオスのニホンジカ(図4)を、環境省は秋田県八峰町で、頭部が映っていないため断定はできないもののニホンジカとみられる個体(図5)を撮影した。

いずれも世界遺産地域まで約150mときわめて近い場所での撮影となった。

(図 4)



(図 5)



ニホンジカによる事故も発生している。

11月21日青森県深浦町で農道を走行中の車両にニホンジカが衝突し事故死した。

また、今年度青森・秋田両県に寄せられた両県全域のニホンジカの目撃情報は、青森県は38件で43頭 秋田県は29件で36頭となっており、2013年度と比較し約4倍となっている。

## 6. 考察

監視強化の初年度から白神山地への進入の証拠が見つかる結果となり、広域的に見ても青森県・秋田県へのニホンジカ進入が進行している事を裏付ける結果となった。

この事を踏まえ、来年度以降のカメラの設置場所、設置方法の再検討を行い、より正確な実態把握を行いたいと考える。

具体的には有識者で構成される白神山地世界遺産地域科学委員会のご助言、また関係機関と連携を図りながら、カメラの増設や今年度設置が少なかった深浦町方面へのカメラ設置、画像撮影・連写機能・動画撮影を活用したモニタリング等を行う。

## 7. 終わりに

当センターとしては、今回の調査により撮影された画像や動画を有効活用し、白神山地の貴重な生態系を多くの方々に伝えていきたい。

その上でニホンジカ対策の必要性について理解を深めていただき、目撃情報の提供の呼びかけを行うなど、地域・県民一体となった取り組みへとつなげていきたい。